

# 栄養部

チーム医療を軸とした栄養・食事療法により  
疾患に対する専門性の高い栄養介入を行い治  
療継続をサポート

## 栄養管理における高い専門性の発揮

東邦大学医療センター大森病院の栄養部門は、  
特定機能病院、がん診療連携拠点病院の認可を  
受けた病院の栄養管理部門として、医師(医学部  
教授)3名、管理栄養士19名、調理師16名が  
在籍しています。管理栄養士は、がん病態栄養専  
門管理栄養士や摂食嚥下リハビリテーション専  
門管理栄養士などの専門管理栄養士が在籍して  
おり、その他にも専門学会が認定する糖尿病療  
養指導士、腎臓病療養指導士、肺疾患専門療法  
士、周術期・救急集中治療専門療法士など、病態  
に応じた専門資格を有する管理栄養士が多数お  
り、食事療法による栄養管理をはじめ、輸液によ  
る静脈栄養法の提案、胃瘻や腸瘻、食道瘻、経鼻  
胃管などを必要とする方への経腸栄養法による  
栄養治療計画の作成も行いながら、質の高い栄  
養管理に努めています。

**がん診療連携拠点病院として化学療法・放射線  
療法における食欲低下や術前・術後の体重減少  
に対する栄養管理と栄養指導の実施**

抗癌剤による化学療法の問題点として、正常細

胞に対しても細胞毒性が発揮され、副作用(有害  
事象)が発現します。化学療法における副作用の  
発現とその程度により、食欲低下や味覚異常、悪  
心・嘔吐、口内炎、下痢症状などの消化器症状の  
頻度が高く、その副作用により栄養障害が起こ  
り、体重が減少します。特に消化がん患者では、  
存在する腫瘍自体やその腹膜播種、腹腔内リン  
パ節転移などによる消化管の通過障害などで、  
食事が制限されることがあります。食事を摂る  
ことに支障が出ることで、低栄養を招くことは  
少なくありません。一旦低栄養に陥ると体重減  
少を招き、活動量は低下し、治療継続が難渋し、  
治療継続時間が短くなることで化学療法の効果  
も低下し、予後も悪くなり、逆に体重減少が抑え  
られた症例では、予後も改善したことが報告さ  
れています。副作用を和らげ、抗癌剤による治療  
継続を支援するために重要な治療法の一つが、  
栄養・食事療法です。

栄養部では、がん病態栄養専門管理栄養士が  
様々な症状がある中で、栄養指導を通じて栄養  
を摂る工夫を患者さんと一緒に考え、食事低下  
に起因した要因を和らげるアドバイスを行うこ  
とにより、がん切除術後の術後障害の症状緩和、  
抗癌剤治療や放射線治療の継続と共に、  
QOL(Quality of Life)の低下を防ぎ、栄養状態の  
改善に導きながら、治療が継続できるようサポ  
ートしていきます。

**患者さんに寄り添う個人対応の食事調整により  
低栄養の改善を目指します**

疾病の治療効果を高める上で栄養状態を良好に  
保つことは重要です。栄養部では、患者さんの病  
態に合わせ、早期回復、治療に貢献できるよう  
様々な特別対応の食事を提供しています。その  
一つに頭頸部癌や消化器癌などの悪性腫瘍によ  
り倦怠感や食欲不振が強い患者さんや抗癌剤治  
療や放射線治療後に起こる副作用の影響で嘔気  
嘔吐、口内炎、味覚・嗅覚障害で食欲不振を招い  
ている患者さん向けに、少しでも無理なく美味  
しく栄養補給を行っていただけのように、食べ  
やすいサイズ、喉越し良い食感、味や匂いを工夫  
し、少量しか食べられない場合でも栄養補給に  
も繋がるように、栄養強化も図りながら、嗜好に  
も配慮した様々な個別の食事調整に力を入れて  
います。入院中の喫食患者さんの約半数に個別  
対応の食事調整を行い、食事療養と食の楽しみの  
両立を追求しています。

がん病態栄養専門管理栄養士  
周術期・特定集中治療専門療法士  
上席室長 古田 雅

